

ポスター報告 38

三品 竜浩 東北福祉大学（非常勤）

#報告題目 障害平等研修（DET）が与える影響と効果について ～テキストマイニング分析～

#報告キーワード 障害平等研修 共生社会 対話型研修

#報告要旨

1 DET（Disability Equality Training）について

DETは、イギリスで障害者自身により体系化され実践されてきた研修（1）であり、障害者自身がファシリテーターとなり社会の中にある障壁を発見・分析し、解決行動を促すワークショップ型の研修である。国連において障害者権利条約が制定され日本も批准した今、社会モデルの理解や一般社会に向けた周知活動は喫緊の課題(2)である。久野らは「障害者の人権と社会参加の促進を目的とした研修」(3)とし、内閣府も、パラリンピックの報告書においてDETの効果が高く評価している(4)。また、筆者らは、これまでの実践について複数回の報告を行っている(5)(6)(7)。

2 日本における先行研究からの示唆と課題

これまでの日本におけるDETのワークショップでは、「障害理解」や「行動形成」(3)等の効果が確認され、「再認識の機会」(8)等についても得られたが、DETの効果についてさらなる探索的な効果検証が必要であると判断した。筆者らは前回のインタビュー調査でDETがもたらす影響の強さは、「①気づき」「②変化」,「③行動化」の順であり、年齢層の若い受講者ほど影響を与え、福祉専門職と障害者家族の双方に影響を与えていることが明らかとなった(9)。さらに、「④専門性」,「⑤社会環境」の2つを新たにコードに加え分析した結果、DET受講後、福祉職が専門性を重視する傾向と比べ、障害者の家族らは、「障害とは社会環境による影響が大きい」と認識する傾向が出た。

3 インタビュー対象者と分析方法

今回の調査では、医療福祉専門職の基礎教育には当事者理解が重要であり、DETは有効と考えたことから、専門職を目指す学生に対しDET受講の影響と効果を検証するため、沖縄県の介護福祉士養成課程の専門学校生（以下、「受講者」という。）13名を対象と

した。これらの受講者に対し、DET 受講前と受講後に質問紙によるアンケート調査を実施した。次に受講者を3グループに分け、DETを受けた影響や効果に関して自由回答によるグループインタビューを実施した。その後、インタビューデータを逐語録に起こし、KHCoder (10) を用いてテキストマイニングによる分析を行った。テキストマイニングはインタビュー等のデータ分析に優れており、今回の調査においても有効な分析方法である。

4 倫理的配慮

調査対象者には事前に口頭と書面で研究目的を説明し、同意書にサインを頂き、事後にデータ破棄への希望があればすぐ対応することを約束した。さらに、個人情報を保護するため、逐語録や質問紙の名前は研究データから取り除いて厳重に保管し、研究実施期間が終了したら廃棄することや、発表内容には個人名等は表記しないこととした。

5 分析と結果

DETの影響と効果について、本人自身に障害等がある場合が最も高く、次に家族や知人等に障害等を持つ人物がある場合、最後に障害者等が周囲にいない場合で差が見られた。

6 先行研究及び参考文献

- (1) LIZ CARR, PAUL DARKE, KENJI KUNO, 「disability equality training - the United Nations」, MPH publishing
- (2) 東俊裕：障害の「ICFモデル」と「条約モデル」. くまもと わたしたちの福祉 68 : 24, (2016)
- (3) 久野研二, 千葉寿夫, 「障害平等研-共生社会に向けた「障害の社会モデル」の視点と動向」OTジャーナル, vol50,no6, (2016,6)
- (4) 内閣官房 「平成28年度 オリンピック・パラリンピック基本方針推進調査 報告書」
- (5) 小林学美, 「平等を考え行動するソーシャルアクションとDET」精神保健福祉通巻114号, Vol.49 No.3 (2018,7)
- (6) 小林, 石川, 三品「精神保健福祉士と作業療法士がタッグを組んだソーシャルアクション」第54回日本精神保健福祉士協会全国大会発表
- (7) 小林学美：沖縄県における障害平等研修（DET）の実践；DET実践からみる手応えと可能性. 障害学会研究会九州沖縄部会研究報告, 2017.
- (8) 加賀美常美代「多文化共生社会における合理的配慮-障害平等研修ワークショップの概要と報告」異文化間教育 45号, pp1-8, (2017)
- (9) 三品, 小林, 高嶺：障害平等研修（DET）が受講者に与える影響と効果について；テキストマイニングを用いたインタビュー分析から. 家族教室・心理教育ネットワーク沖

縄大会研究発表, 2018.

(10) 樋口耕一 「社会調査のための計量テキスト分析 ―内容分析の継承と発展を目指して―」(2014), ナカニシヤ出版